メディアやデバイスが変わってもソフト作りの本質は変わらない

Keywords　：　放送、テレビ、ラジオ、メディア

社会・マスメディア系専攻
教授
すぎうら　とおる
杉浦　徹
sugiura@socio.kindai.ac.jp

◆研究概要等

在阪民放局（毎日放送）で35年間、TV・ラジオの制作を中心に、編成・宣伝など多岐にわたって経験を積みました。
テレビでは情報番組・バラエティ・ワイドショーなどの制作に携わり、ラジオでは若手からベテランまで様々なパーソナリティーと出会い、番組作りを行ってきました。

昭和から平成そして令和へと、放送や番組を取り巻く環境やその形はめまぐるしく変化、進化を続けています。

そうした変化、進化の中に身を置き、変わらなければならないものと、変わってはいけないものを実感しながら、番組作りを行ってきました。

テレビのデジタル化に伴う進化やラジオの栄枯盛衰、そしてWEBと放送メディアの関係。

現場での様々な経験を元に、これからのメディアについて、それを担っていく学生たちと考え、制作者としての基礎を育成していきます。

■研究テーマ等

①番組ソフトの分析・制作

テレビ番組にはテレビの歴史とともに培われた様々な要素が詰まっています。現在、ネットで流れる多くの動画もこうしたテレビの世界で培われた人材や制作力が生み出したものです。

情報であれ、感情であれ、一瞬にして無数の人たちに向かってそれらを届ける放送には、今でも大きな影響力があります。

メディアとして、ソフトとして、蓄積された多くの財産について学びながら、これからの時代を映し出し、リードする番組作りについて考えていきます。

②これからのメディア

近年、ネット動画の世界は飛躍的に伸びていますが、ネット動画の時代はまだ始まったばかりです。技術の進歩、それに伴うソフトやメディアの進化は、予想できないことばかりでしょう。

しかしある日突然、全てが変わってしまうということはありません。進化はみな、それまでの蓄積を元に行われていきます。

放送が担ってきたメディアでの役割は、どんな形で進化していくのか。それを担うのは誰か。時代の変化の中で、変わるものと変わらないものを冷静に判断し、メディアのこれからを考えます。

③番組制作者としての人間力の育成

放送であれネットであれ、番組を作る人間に求められるものの本質は変わりません。

知識・常識・コミュニケーション力・企画力・判断力・行動力・情熱・冷静さ…。

どれも特別なものではなく、人として身につけたい人間力です。

どんな世界でも求められるものですが、とりわけ世の中に対する影響力の強いメディアの世界では、欠かすことができません。

放送を学ぶことを通して、それらの力を持つ若者を育成します。

●論文・作品・表彰・特許等

・テレビ番組

「ちちんぷいぷい」「せやねん！」「新たかじんが来るぞ！」「むちのち」(プロデューサー)

「サタデープラス」「メッセンジャーの〇〇は大丈夫なのか？」(アドバイザー)

「板東英二のわがままミッドナイト」「テレビのツボ」「スミっこ天国」(ディレクター)

・ラジオ番組

「MBSヤングタウン」(プロデューサー)

「ありがとう浜村淳です」(ディレクター)

NHK民放連共同ラジオキャンペーンin大阪「ラジオにタッチ」実務者会代表

▲趣味等

高校時代から40年以上、映画館に行くことが生活の一部になっています。

学生時代も会社員時代も教員になっても、授業や仕事を終えてスクリーンに向かう時間は変わらない(成長しない！？)自分を感じます。

また長年、演劇やライブなどにも足を運び続けるエンタメ好きオヤジです。

ゴルフは「スコアは二の次、プレイできるだけで幸せ」を信条に楽しんでいます。

◆ゼミの宣伝等

まずは様々なテレビ番組を見て、自分の中に多くのものを蓄積すること。

次にそれらについて考え、分析すること。そして自ら企画して制作すること。

番組作りに対して強い思いを持つ者どうしで意見を戦わせあいながら、制作者としての力を養います。

また放送人・社会人としての実力を養うために日常生活の中での生き方や情報との向き合い方の指導も行っていきます。

時には研究室を離れて、食事やお酒と一緒にゼミ生たちとあれこれ話す時間も大切にしています。